

福田さんとの出会い

下 田 和 寿 人

私は、平成5年4月に知事部局から教育委員会文化課に異動になりました。当時の文化課は、総務係、管理係、文化係、埋蔵文化財班がありました。知事部局からの出向者は、これまでは総務係か文化係に配属されていたそうですが、私は管理係に配属されました。そして数日後、埋蔵文化財班が中心になって、立山公園に花見に出かけた時、高野係長から、「今まで知事部局から何人も来たが、管理係に配属になったのは下田さんが初めてだよ」と言われました。このときは、びっくりして頭がまっ白になったことをよく覚えています。管理係というのは、簡単にいうと文化財の維持管理をする係で、県内の有形、無形の文化財の調査・現状変更申請・補助金などを担当していました。

この平成5年4月に福田さんも県立高校から文化課に異動して来られました。私の文化課での初仕事は、実は福田さんの引っ越し手伝いでした。3月31日の午後に管理係の法澤係長から電話があり、「下田さんは明日の朝からは文化課には来ないで、福田さんの引っ越しを手伝ってから、文化課に来てくれ」と言われました。4月1日の初仕事が引っ越しの手伝いとは現在では考えられないですね。しかし、これが私と福田さんとの出会いでした。

当時の埋蔵文化財班は、田川補佐、高野係長、安楽係長はだいたい文化課におられました。福田さんたちは、ほとんど立山分室におられました。ですから、福田さんたちには月に何回かしか会いませんでした。それでも、管理係と埋蔵文化財班は共に文化財を担当している関係で、私はずいぶん埋蔵文化財班の方々にも助けていただきました。特に福田さんには、一緒に文化課に来て、年齢も近いこともあり、県内の歴史の話をしたり、発掘調査のことなどをくわしく教えていただきました。そういう経験をして、だんだんと文化財行政の楽しさがわかり、私は文化財を活かしたまちづくりを進めていきました。

また、当時の文化課は課内旅行に1泊2日で行っていました。私のはっきり記憶に残っているのは、熊本県山鹿市の「装飾古墳館」に行ったことです。ここでは私が初めて見るものばかりで、とても興味深く見ていました。主な展示品は全て本物だと思って見ていると、福田さんがこれはみんなレプリカだよと教えてくれ、びっくりしたことをよく覚えています。よく考えてみれば、当たり前ですが、その時は本物そっくりだったのが大変びっくりしたのをよく覚えています。この「装飾古墳館」の見学は今でも鮮明に覚えていて、これがきっかけで古墳にも興味を持つようになり、個人的にもいろいろな古墳を見て回りました。

なお、私は平成17年4月に県から新上五島町役場に派遣になりました。新上五島町は、福田さんの故郷であり、お父さんが合併前の新魚目町長をされていたところでした。役場には、福田さんの同級生の職員もおられましたし、お父さんが町長の時に採用になった職員もいました。今考えると、これも福田さんとの縁が少しあったのかなと思っています。

最後になりますが、このような企画を考慮いただき、そして、このように多くの方々が、追悼の記念論文集を刊行されるということは、福田さんの人柄だと思っています。多くの賛同者の方々に私からもお礼を言いたいと思います。最後の最後に、これから福田さんのご家族がお元気で過ごされるよう祈念して、私の思い出の話を終わります。